

Open up the future 2024.12.12



「くり返し」のよさや面白さを考える

音楽科山本教諭「くりかえしをつかって、おまつりの音楽をつくろう」のご授業では、「くりかえし」の概念を切り口として、口ずさんだり、手でたたいたり、太鼓に見立ててリズムを刻んだりし、リズムと思いや感受したことを結び付けようとする姿が随所に見られました。協議会では、くり返しの条件設定をどうするか、どういった姿を「くり返し」のよさや面白さを実感している姿と捉えるのか等、熱い議論が交わされました。

16名の先生の研究授業を終えて……

本校の校内研究会は2つの分科会に分かれて協議を行うため、両方の協議内容を少しでも知っていただきたいという思いから、この校内研究通信を発行しております。全員で協議できた今回は、協議会の内容をお伝えするという役割から少し逸れて、今年最後のご授業ということで、簡単にこれまでの総括をいたします。

さて、令和6年度滋賀附属小は、現時点で16名の先生による研究授業を積み重ねてまいりました。どのご授業も提案性があり、本校研究の深まりを実感しています。研究部による現在の研究成果の見いだしは、以下の通りです。(12月12日時点。項立てを列挙したものであり、今後検討・更新していきます。)

1. 習得・活用段階の違いが、探究での「違い」をもたらす
2. 「見方・考え方」を働かせることで、探究が勢いづき、教科の学びに焦点化していく
3. 「資質・能力」と「見方・考え方」の双方の視点で、探究への意欲を掻き立てる
4. 「教科固有の知識・技能を統合、包括する主要な概念」で単元としての学びを自覚する
5. 創作単元においても、見方・考え方を豊かに働かせる
6. よりどころとする概念が単元の中で変遷する例、複数の概念を複合的に働かせる例
7. 生活課程においても、よりどころとする概念を描くことで資質・能力が育まれる
8. 授業外においても、各教科ならではの「見方・考え方」を働かせることで探究し続ける
9. 探究の実際から、日々の授業や単元、カリキュラムの見直しや改善へ

残り6名の先生方のご授業も待ち遠しいです。来年度も引き続き、力強く実践研究を積み重ねてまいりましょう。